アメリカ文学・研究書特集

本特集紙面は、読書人ウェブ上で無料公開しています。上記ＱＲコードからアクセスしてください。

日本アメリカ文学会第63回全国大会に寄せて

「中二階」の文学研究を求めて

西谷　拓哉

大学の同僚からこんな話を聞かされたことがある。その同僚が恩師から、「他の人は一階から二階に上がって論文を書くが、お前は一階で書いている」と言われたというのである。「一階」とは普段の生活の場ということでもあろうが、それよりむしろその人の生き方の根底を言ったものだろう。「二階」とはあくまで研究の場として、著者の日常や人生とはいったん切り離された世界のことである。爾来、その言葉が心に残り、私も論文を書くときに意識し続けてきた。自分の書いた文章に、いわゆる頭だけで書いたものと生身の実感で書いたものの二種類があり、前者はどうもつじつま合わせだけで面白くないからだ。後者にむろん論理がないわけではないが、その論理には身につまされて出てきたような手触りがあって、自分でも捨てがたいのである。

「一階、二階」を言ったのは宮崎芳三という英文学者である。その宮崎氏が中心となって編纂された『日本における英国小説研究書誌』（風間書房）は、昭和四十三年から六十年までの論文を紀要から書物まで網羅的に集め、一つ一つを丹念に読み、時に長文のコメントを付している（入手したのはずいぶん前になる。全四巻を古本屋で見つけ、即購入した。とはいえ十分な持ち合わせがなく、一緒にいた友人にお金を借りたのであるが）。ヘンリー・ジェイムズを含むイギリスの小説家に関する批評の傾向と推移をたどることができ、ということだけから来ているのではないようだ。あえて言えばこの論文は、ある生き方をえらびとろうとしているひとりの人によって書かれたという趣がある。つまり、論文の背後にその人の重みを感じるのである。（中略）筆者はこのような論文を書いた責任をとらないわけにはゆくまい」（第四巻66頁）。

ここまで言われればかえって匕首を突き付けられたようで、身が竦むほど怖くもなろうが、それでもここには学問の一つの理想が示されている。それは、論文著者の人となりと論理の強力な結合であり、何階云々をもじっていえば、「中二階」の文学研究ということである。「一階」だけでは独善的な人生論に陥る恐れがある。かといって、そこから離れ、「二階」や「三階」に上がって書いてしまえば、学術的に純粋にはなっていくが、自分自身との関わりが薄れ、結局他人事ということにもなりかねない。学術と人生のあいだで高度の緊張を保ちながら書かれた、「一階」でもなければ「二階」でもない、いわば「中二階」の文学研究、そういうものが書きたいし、読みたいとも思う。言うのは簡単だが、実践は極めて難しい。だが、そのような研究に出会える可能性は、常に、どこにでもある。今回の全国大会もその期待をもって臨みたい。

（にしたに・たくや＝日本アメリカ文学会副会長・神戸大学大学院国際文化学研究科教授・アメリカ文学）

特集　アメリカ文学／研究書あんない

毎年秋に開催される日本アメリカ文学会全国大会。第63回目となる今年は中京大学名古屋キャンパスで10月12日（土）・13日（日）に開催される。小紙では毎年恒例となっているアメリカ文学に関する研究書を各出版社のご協力により特集する。アメリカ大統領選を目前に控えた今こそ、文学を通してアメリカの精神を知る機会になれば幸いだ。また、大会開催を機に日本アメリカ文学会副会長の西谷拓哉氏にエッセイを寄せてもらった。（編集部）

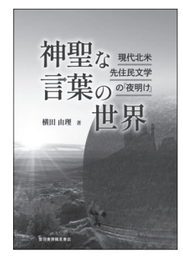
日本アメリカ文学会第63回全国大会
特別講演：堀江　敏幸氏

第２日目・10月13日（日）には、堀江敏幸氏（作家・早稲田大学文学学術院教授）を講師に迎えた特別講演「ある翻訳書の序文をめぐって――1930年代フランスにおけるアメリカ文学」〈司会：香ノ木隆臣氏（愛知学院大学）〉も予定されています。その他、プログラム詳細は、以下ＱＲコードよりご覧いただけます。

日本アメリカ文学会公式 HP

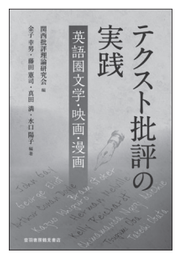
日本アメリカ文学会全国大会開催を機に

2024年10月12日（土）・13日（日）〔於・中京大学 名古屋キャンパス〕



神聖な言葉の世界　現代北米先住民文学の「夜明け」

Ａ５判・420頁・4180円
横田由理著　著者の数十年にわたる現代ネイティヴ・アメリカン文学研究の結実を余すところなく伝えて、西欧文化中心になりがちな世界の再考をも促してやまない。
音羽書房鶴見書店

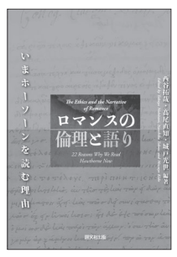


テクスト批評の実践　英語圏文学・映画・漫画

四六判・308頁・3520円
金子幸男・藤田憲司・真田満・水口陽子編著　批評理論を平易に解説しながら文学、映画、漫画など様々なテクストを読み解き、その面白さを味わう９人の論考を集める。
音羽書房鶴見書店

サマー・クロッシング

四六判・192頁・2200円
大園弘訳　『ティファニーで朝食を』のカポーティが最初に手がけた中編小説の遺稿が、新訳として蘇る！自由と安住の地を求めてさまよう主人公の自己探求の冒険。
開文社出版



ロマンスの倫理と語り　―いまホーソーンを読む理由

Ａ５判・480頁・5280円
西谷拓哉・髙尾直知・城戸光世編著　ホーソーン研究の現在地を示す22人の論客による日本ナサニエル・ホーソーン協会40周年記念論文集。ホーソーン文学を読むとは。
開文社出版

都市と連帯　―文学的ニューヨークの探究

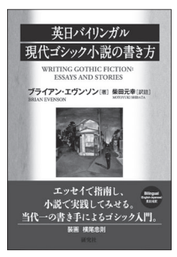
四六判・406頁・3520円
藤野功一編著　1920～2010年代のNYを舞台とした小説と演劇において、都市でのマイノリティーの孤独の現実と連帯への希求がいかに描かれたかを、10名の視点から辿る。
開文社出版

だから映画はおもしろい　アメリカ映画とエスニシティ

新書判・370頁・1980円
君塚淳一・馬場聡・河内裕二編著　39本のアメリカ映画を中心に、関連する作品も多数紹介。映画を通して「アメリカ」を理解するためのガイドブック。
金星堂

アメリカ70年代　激動する文化・社会・政治

四六変型判・544頁・3960円
ブルース・J・シュルマン著／巽孝之監訳・北村礼子訳　異色の歴史学者が21世紀のアメリカを形作った70年代をヴィヴィッドに描き出した話題作。
国書刊行会



英日バイリンガル　現代ゴシック小説の書き方

Ａ５判・252頁・2530円
ブライアン・エヴンソン著／柴田元幸訳註　当代随一のゴシック作家が、創作法をエッセイで指南し、実践例を本書オリジナル短篇で示す。柴田元幸との対談も収録。
研究社

マーガレット・フラー　近代への扉―ジェンダー、階級、そして人種

Ａ５判・372頁・3300円
上野和子著　アメリカ初の女性ジャーナリスト、フラーの伝記。彼女の視点から近代の幕開けを読み解く。
金星堂

現代演劇 Vol.23　特集 トニー賞・ピューリツァー賞Ⅱ

Ａ５判・264頁・2750円
現代演劇研究会編　おおよそ2000年以降にアメリカで上演され、トニー賞・ピューリツァー賞を受賞あるいはその候補にあがった作品群を取り上げる特集の第２弾。
金星堂

ラルフ・ウォルド・エマソンと奴隷制廃止主義

Ａ５判・463頁・6600円
小倉いずみ著　エマソンが人生の中でどのように奴隷制廃止運動にかかわったかを探究し、さらには彼の思想の普遍性をも分析するものとなっている。
金星堂

完訳エミリ・ディキンスン詩集 第2版（フランクリン版）

Ａ５判・560頁・5500円
新倉俊一監訳／東雄一郎・小泉由美子・江田孝臣・朝比奈緑訳　原作の新たな定本フランクリン版に準拠した、ディキンスン完訳詩集の改訂第２版。
金星堂

カマラ・ハリスの流儀　アメリカ初の黒人女性副大統領

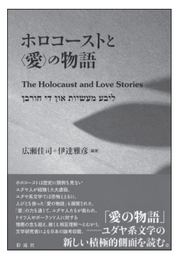
四六判・400頁・2750円
ダン・モレイン著／土田宏訳　ハリスはなぜ副大統領にまでなれたのか。それは彼女独自の流儀があったからだ。自伝で書かれていない実像に迫るハリスを知る最適書。
彩流社

自由を求めて　アメリカ南部 人種統合と黒人学校の行方

Ａ５判・358頁・4180円
デイヴィッド・Ｓ・セセルスキ著／樋口映美訳　1960年代末、公教育における人種統合政策に対してノースキャロライナ州の小さき村の黒人による抵抗運動を描く。
彩流社

クァーキーな女たちの伝統　米文学者による日本女性作家論

四六判・272頁・3300円
小林富久子著　近年の英語圏での日本の女性作家人気とフェミニズムの状況も踏まえ、長年、日本女性文学の研究を続けてきた著者ならではの「読み」を提供する。
彩流社



ホロコーストと〈愛〉の物語

四六判・224頁・2750円
広瀬佳司・伊達雅彦編著　赦しと相互理解へ――「ホロコースト」という極限の状況下で、愛の果たす役割とその絆がいかに描かれているかに迫る９編の論考を収載。
彩流社

アメリカの〈無意識〉　文学と映画で読む500年の歴史【近刊】

四六判・480頁・予価4180円
武田悠一著　建国以来、アメリカを突き動かしてきた〈無意識〉とは何か。コロンブスから現在までおよそ500年のアメリカの歴史を、文学と映画を通して読み解く。
彩流社

マーガレット・フラー　新しい女性の生き方

Ａ５判・584頁・4950円
メーガン・マーシャル著／伊藤淑子訳　19世紀に女性の新しい生き方を示したフラー伝。遺された言葉を丹念に紡いで蘇るその生涯。ピューリッツア賞受賞！
国書刊行会

アメリカン・クライシス　危機の時代の物語のかたち

四六判・201頁・2640円
ハーン小路恭子著　人種、ジェンダーなどが交差し醸成されてきた危機の感覚が文学や視覚文化の中でいかに実践され共有されているかを解き明かす。
松柏社

ゴシックと身体　想像力と解放の英文学

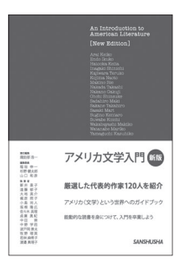
四六判・240頁・2640円
小川公代著　家父長制に抗う女たちがもちいたものこそ“ゴシック”の戦術だったのではないか。著者の長きにわたるゴシック文学研究、初の単行本化。
松柏社

アウター・ダーク　外の闇

四六判・324頁・2750円
コーマック・マッカーシー著、山口和彦訳　近親相姦により赤子をもうけた兄と妹が彷徨を重ねた先に見たものとは。アメリカ南部の暗澹たる世界を寓意的に描く。
春風社

アメリカ文学との邂逅　アーシュラ・K・ルグィン　新たなる帰還

四六判・408頁・4180円
佐々木真理著　想像力の持つ可能性と希望を信じ、異文化の共存の可能性を模索し、限界に挑戦し続けたルグィンの螺旋をのぼる旅をたどる。シリーズ第5弾。
三修社



アメリカ文学入門【新版】

Ａ５判・466頁・3850円
諏訪部浩一責任編集　代表的作家120人を紹介した、アメリカ＜文学＞の世界へのガイドブック。文学を能動的に読む工夫を提示。
三修社

アメリカ映画史入門

Ａ５判・462頁・4180円
杉野健太郎責任編集　アメリカの各年代の監督と作品を映画史的意味とともに紹介。82人の監督、63作品については個別に取り上げ概説する。日本映画学会監修。
三修社